

令和4年度 授業計画（シラバス）

科目名	小児看護学概論	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> <p>小児科病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
《科目目標》 小児各期の成長発達の特徴を理解し、小児の健全な成長発達を促すための援助を学ぶ。また、子どもを取り巻く社会環境について知り、子どもの最善の利益について考える					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシンググラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護：メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学②小児看護技術：メディカ出版 公衆衛生がみえる メディックメディア					
《授業外における学習方法》 課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 積極的にGWに参加できるよう、準備して授業に参加する					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	小児看護の対象とその時期・小児の成長発達の原則と影響因子 身体発育および発達の評価			講義
2	2				
3	2				
4	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：新生児			講義
5	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：乳児			GW
6	2				講義
7	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：幼児			GW
8	2				講義
9	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：学童期・思春期			GW
10	2				講義
11	2	子どもの栄養			講義
12	2	調乳			演習
13	2	成長発達を促すかわりを考える			GW
14	2	小児看護の変遷・子どもと家族を取り巻く法律と施策			講義
15	2	子どもの権利・子どもの最善の利益			講義

令和4年度 授業計画 (シラバス)

科目名	小児看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (15)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
≪科目目標≫ 小児期に起こりやすい代表的な疾患の病態・治療・検査について理解する					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材 (教科書) 及び参考図書≫ ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	新生児疾患 (RDS・MAS・新生児仮死・幽門狭窄症・二分脊椎)、遺伝性疾患、染色体異常 (13・18・21 トリソミー・ターナー症候群・クラインフェルター症候群)			講義
2	2	代謝・内分泌疾患 (新生児マススクリーニング・糖尿病・成長ホルモン分泌不全)、アレルギー疾患 (食物アレルギー)			講義
3	2	免疫・アレルギー疾患 (気管支喘息・川崎病)			講義
4	2	循環器疾患 (VSD・ASD・PDA・ファロー四徴症)			講義
5	2	腎・泌尿器疾患 (ネフローゼ症候群・尿路感染症)、消化器疾患 (腸重積症・周期性嘔吐症)			講義
6	2	血液・腫瘍疾患 (ITP・白血病)			講義
7	2	神経・筋・精神疾患 (てんかん・熱性けいれん・自閉スペクトラム症)			講義
8	1	感染症 (髄膜炎・麻疹・風疹・水痘・ムンプス・インフルエンザ・RS・結核・百日咳・ジフテリア・破傷風・ポリオ・溶連菌感染症)			講義

令和4年度 授業計画 (シラバス)

科目名	小児看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
<p>担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>小児科病棟勤務経験があり、その経験から得た知識や患児、家族との関わりなどを講義にいかしている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>小児の健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、小児看護を行うための基礎的知識を理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>① ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ② ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 ③ ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>小児看護概論で学んだ、子どもの成長発達を想起しながら子供の看護を考える</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	慢性期にある子どもと家族への看護			講義
2	2	急性期にある子どもと家族への看護 (発熱)			講義
3	2	急性期にある子どもと家族への看護 (脱水)			講義
4	2	急性期にある子どもと家族への看護 (けいれん)			講義
5	2	急性期にある子どもと家族への看護 (呼吸困難)			講義
6	2	周手術期にある子どもと家族への看護			講義
7	2	障害を持つ子どもと家族への看護			講義
8	2	在宅における子どもと家族への看護 災害を受けた子どもと家族への看護			講義
9	2	救急救命処置を受ける子どもと家族への看護 被虐待児と家族への看護			講義
10	2	検査や処置を受ける子どもと家族への看護			講義
11	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護			講義
12	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護			講義
13	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護			講義
14	2	終末期にある子どもと家族への看護			講義
15	2	終末期にある子どもと家族への看護			講義

令和4年度 授業計画（シラバス）

科目名	小児看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位（時間）	1（30）	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> <p>小児病棟で実務経験のある教員がその経験を生かし、実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
《科目目標》 <p>小児の特徴的な健康障害を取り上げ、子どもの基本的特性に応じた症状のアセスメントや必要な看護が理解できる。</p>					
《成績評価の方法》 <p>筆記試験</p>					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 <p>① ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ② ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 ③ ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	ハイリスク新生児と家族への看護			講義
2	2				講義
3	2	外来における子どもと家族への看護			講義
4	2	子どもの安全を守るために必要な看護（KYT）			講義
5	2				講義
6	2	健康障害をもつ子ども・家族へのアセスメント			講義
7	2	事例①川崎病			講義
8	2	事例②嘔吐下痢症			講義
9	2				講義
10	2	事例③気管支喘息			講義
11	2				講義
12	2	事例④ネフローゼ症候群			講義
13	2				講義
14	2	事例⑤白血病			講義
15	2	新生児人形を用いて身体計測 モデル人形を用いて心拍数・呼吸数測定 保育器の取り扱い			演習

